

学校法人 西南学院

西南学院早緑子供の園

西南学院舞鶴幼稚園

西南学院小学校

西南学院中学校・高等学校

西南学院大学

西南学院大学大学院

西南学院大学法科大学院

学校法人 西南学院

ビジョンと中長期計画

2016-2025

ビジョンと中長期計画の 策定にあたって

INDEX

学校法人西南学院は、1916年、米国人宣教師C.K.ドージャーによって福岡市に設立されました。創立者の遺訓“Seinan, Be True to Christ”(西南よ、キリストに忠実なれ)は、学院の建学の精神として、現在もなお大切に受け継がれています。

西南学院は、2016年5月に創立100周年を迎えるにあたり、今後も建学の精神を守り、さらに発展し続けるために、「西南学院ビジョン 2016-2025」を策定し、2014(平成26)年12月に理事会で承認いたしました。

これは、現代の視点で建学の精神を見つめ直すことで、西南学院の全構成員が一つの将来像に向かって共通の目標を持ち、創立100周年以降も進み続けようとするものです。

そして、「西南学院ビジョン 2016-2025」を具現化するため、各学校・園・保育所において検討を重ね、2015(平成27)年12月に中長期計画を策定いたしました。策定にあたっては、西南学院が擁する保育所、幼稚園、小学校、中学校・高等学校、大学、大学院および法科大学院のすべてにわたって、一人ひとりを大切にされた保育・教育を続けるため、2016年から2025年までの10年間におけるビジョン実現に向けた課題とアクションプランを議論し、精査したものを取りまとめました。

創立100周年を迎えられることに感謝し、さらに続く100年に向けて、今後も一歩ずつ着実な歩みを進めていきます。



西南学院理事長・院長
G.W.バークレー

ビジョンと中長期計画の策定にあたって	1
建学の精神と西南学院の使命	3
西南学院の概要	4
西南学院ビジョン 2016-2025	5
建学の精神から現場業務まで繋がる一貫性	7
中長期計画 2016-2025	9
[主なアクションプラン]	
学校法人西南学院	11
西南学院早緑子供の園	15
西南学院舞鶴幼稚園	17
西南学院小学校	19
西南学院中学校・高等学校	21
西南学院大学	25
西南学院大学大学院	31
西南学院大学法科大学院	33

建学の精神

“Seinan, Be True to Christ”

西南よ、キリストに忠実なれ

西南学院は1916(大正5)年、米国南部バプテスト派の宣教師C. K. ドージャーによって創立されました。福岡市初の男子の私立中学校として、当初104人の生徒と9人の教職員でスタートした「私立西南学院」は、1921(大正10)年に大学の前身である高等学部を開設し、学院発展の基礎を築きました。創立者の遺訓“Seinan, Be True to Christ”(西南よ、キリストに忠実なれ)は、建学の精神として受け継がれ、現在もキリスト教を基盤とした独自の教育を実践しながら、キリスト教的人間観、世界観に立ち、奉仕の精神をもって社会に貢献する人を送り続けています。



創立者
C. K. ドージャー(1879 -1933)
1879(明治12)年に米国ジョージア州ラ・グレインジュの町で生まれる。
13歳でバプテスマを受ける。マーサー大学、南部バプテスト神学校を卒業後、
1906(明治39)年9月、南部バプテスト連盟外国宣教局(ミッション・ボード)の
宣教師として来日し、宣教活動を始める。
1916(大正5)年4月、「私立西南学院」を創立。
1917(大正6)年から1929(昭和4)年まで第2代院長として学院の発展に心血を注いだ。

西南学院の使命

学校法人西南学院は、「キリストに忠実なれ」の建学の精神に基づいて

真理の探求および優れた人格の形成に励み、

地域社会および国際社会に奉仕する創造的な人材を育てることを使命とする。

Seinan Gakuin, an educational institution endeavoring to be true to Christ in the pursuit of truth in academic affairs and excellence in character development, strives to equip and nurture students to serve as creative and constructive leaders in local communities and in an expanding global society.

西南学院の概要

1916年に旧制中学校として生徒104名と教師9名からスタートした西南学院は、現在、保育所から大学院までを擁する、園児・児童・生徒・学生の総数が1万人以上の総合学園に発展しました。

西南学院早緑子供の園

生きていく上での土台を築く幼児期を、神様から愛され守られている安心感を持って成長していくことができるように、一人ひとりを大切に保育を行っています。



西南学院舞鶴幼稚園

創立100周年を越える長い歴史を持つ幼稚園。キリスト教教育を通し、思いやりの心を培いながら、個性豊かにのびのびと生きていく力を育む遊びと仲間との活動を中心とした保育を実践しています。



西南学院小学校

真理を探求し、平和を創り出す人間を育成することを教育の理念とし、子どもたち一人ひとりが豊かな未来へと羽ばたく大きな翼を育むことができるよう共に歩んでいます。



西南学院中学校・高等学校

一人ひとりが授かった能力や個性を最大限に生かすことができる教育を目指し、中高一貫教育を実施。生徒が自分の適性を知り、力を発揮して希望の進路に進むことができるよう指導します。



西南学院大学

7学部、13学科、法科大学院を含む大学院8研究科を擁する文科系・社会科学系総合大学。キリスト教を基盤とした人格教育を実施。また外国語教育をはじめとする国際教育の充実を図っています。



西南学院大学大学院

7研究科、8専攻(2016年度より9専攻)を設置し、多くの研究者や高度専門職業人を輩出している文科系・社会科学系総合大学院。優れた教授陣のもと、国際化、多様化といった時代と社会の要請に即応する学びを実践しています。



西南学院大学法科大学院

第一級の優秀な法曹を育てることを目指し、キリスト教主義に立脚した教育を法曹養成教育においても貫き、豊かな人間性と寛容さ並びに博愛と奉仕の精神を養うことに力を注いでいます。



西南学院ビジョン 2016－2025

西南学院の建学の精神である

“Seinan, Be True to Christ”と

それに基づく学院の使命を実現するために、

5つの視点からビジョンを策定しました。

ビジョンの5つの視点の中心にある

建学の精神は、時代背景、社会環境の変化に

応じて建学の精神の現代的意味を絶えず

問い続ける、という想いを込めたものです。



人間育成

キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

西南学院の土台は「聖書」です。時代が移り変わろうとも、決して変わらないのはキリスト教主義に深く根ざした、世界の平和を希求する隣人愛にあふれる人間育成の姿勢です。日々の行いをゆたかな隣人愛に満ちたものにするとともに、世界のあらゆる場所において社会貢献に寄与することを目指すものです。

- ① 平和をつくりだす人間教育
- ② 隣人愛の理解と実践
- ③ 奉仕の精神を持って社会を先導する人間の育成

教育研究

確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

「真理の探求」という使命のもと、保育所から大学院まで擁する総合学園として、研究と教育の有機的な循環により、保育・教育力のさらなる充実と社会を先導する新たな知と価値の創造を目指していきます。また、福岡西部副都心という恵まれた立地条件を活かし、広く九州・アジアをはじめ世界にも貢献する学術研究拠点として、その機能の充実・強化を目指します。

- ① 一人ひとりの個性を引き出す保育・教育力の充実
- ② 総合的な「知」を志向した教育機会の提供
- ③ 社会を先導し、社会へ貢献することを目指した研究機能の充実・強化

国際感覚

異文化を受容し、行動できる国際性の修得

社会をとりまく環境は地球規模で大きく変化しています。政治・経済・文化において、国境を越えた活動が一般化し、外国で活動する機会のみならず、日本においても異なる文化背景を持つ人々と共に活動する機会が増えています。こうした社会を見据え、異文化を受容し、世界的視野で行動できるグローバル人材としての国際性を涵養していきます。

- ① グローバル人材の育成
- ② 異文化理解と外国語教育の充実
- ③ キャンパスの国際化の推進

地域貢献

進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

アジア諸国との歴史的な窓口として、また国際交流都市として新たなステージを迎える福岡とともに、西南学院は成長を重ねてきました。西南学院を介して過去から現在まで培われた人や地域の様々な絆を、未来に向けて一つ一つ丁寧に紡ぎ、学院全体の一体感、地域との一体感をさらに高めるとともに、進化する福岡を牽引するという使命感と自覚を持ち、さらなる協働を推進していきます。

- ① 地域社会との協働
- ② 国際交流都市福岡への貢献
- ③ 地域に開かれ、地域に貢献する空間づくり

経営基盤

永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

変化し続ける社会環境に応じて、絶えず変革と発展を続け、社会的責任を果たすためには、柔軟な組織の構築と安定した財務基盤の確立が必要です。これまで、ガバナンス強化や経費削減など様々な取り組みを行ってきましたが、今後さらに経営体制の高度化を進め、安定的な法人運営を行っていきます。

- ① 経営体制の充実・強化
- ② 健全な財務基盤の確立
- ③ 社会的責任の遂行

建学の精神から現場業務まで繋がる一貫性

建学の精神と西南学院の使命を踏まえた「ビジョン」、ビジョンの実現に向けた「中長期計画」、そして、中長期計画を具体化した「単年度事業計画」を連動させることにより、建学の精神から現場業務まで繋がる一貫性を確保します。

建学の精神

使命

ビジョン

中長期計画

単年度事業計画

現場業務

ビジョンの5つの視点

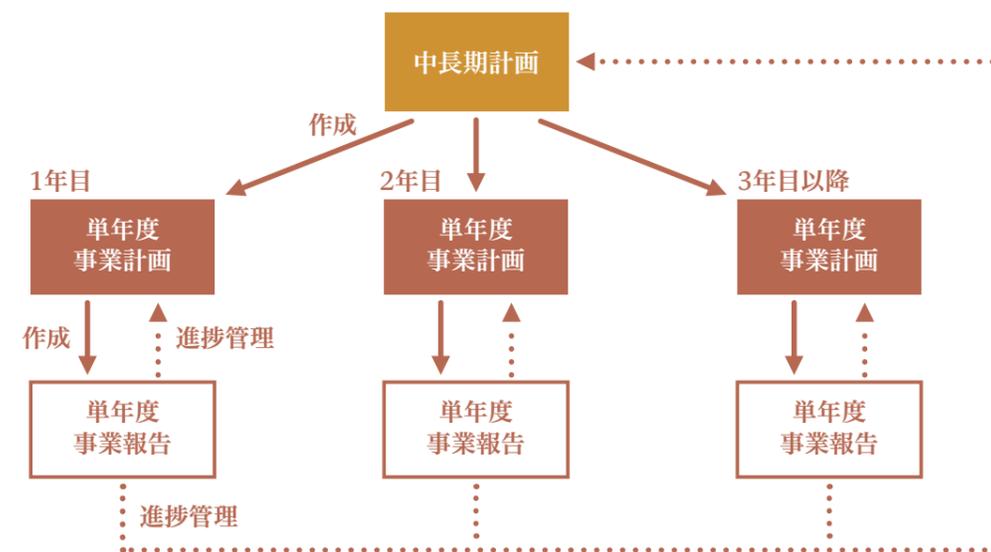


- 人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践
- 教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造
- 国際感覚:異文化を受容し、行動できる国際性の修得
- 地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働
- 経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

ビジョンの実現に向けて、学校法人西南学院の中長期計画と各学校・園・保育所の中長期計画を策定。

- 学校法人西南学院 中長期計画
- 西南学院早緑子供の園 中長期計画
- 西南学院舞鶴幼稚園 中長期計画
- 西南学院小学校 中長期計画
- 西南学院中学校・高等学校 中長期計画
- 西南学院大学 中長期計画
- 西南学院大学大学院 中長期計画
- 西南学院大学法科大学院 中長期計画

中長期計画を具体化し、単年度事業計画を策定。単年度事業報告を用いて、中長期計画と単年度事業計画の進捗管理を実施。



中長期計画 2016－2025

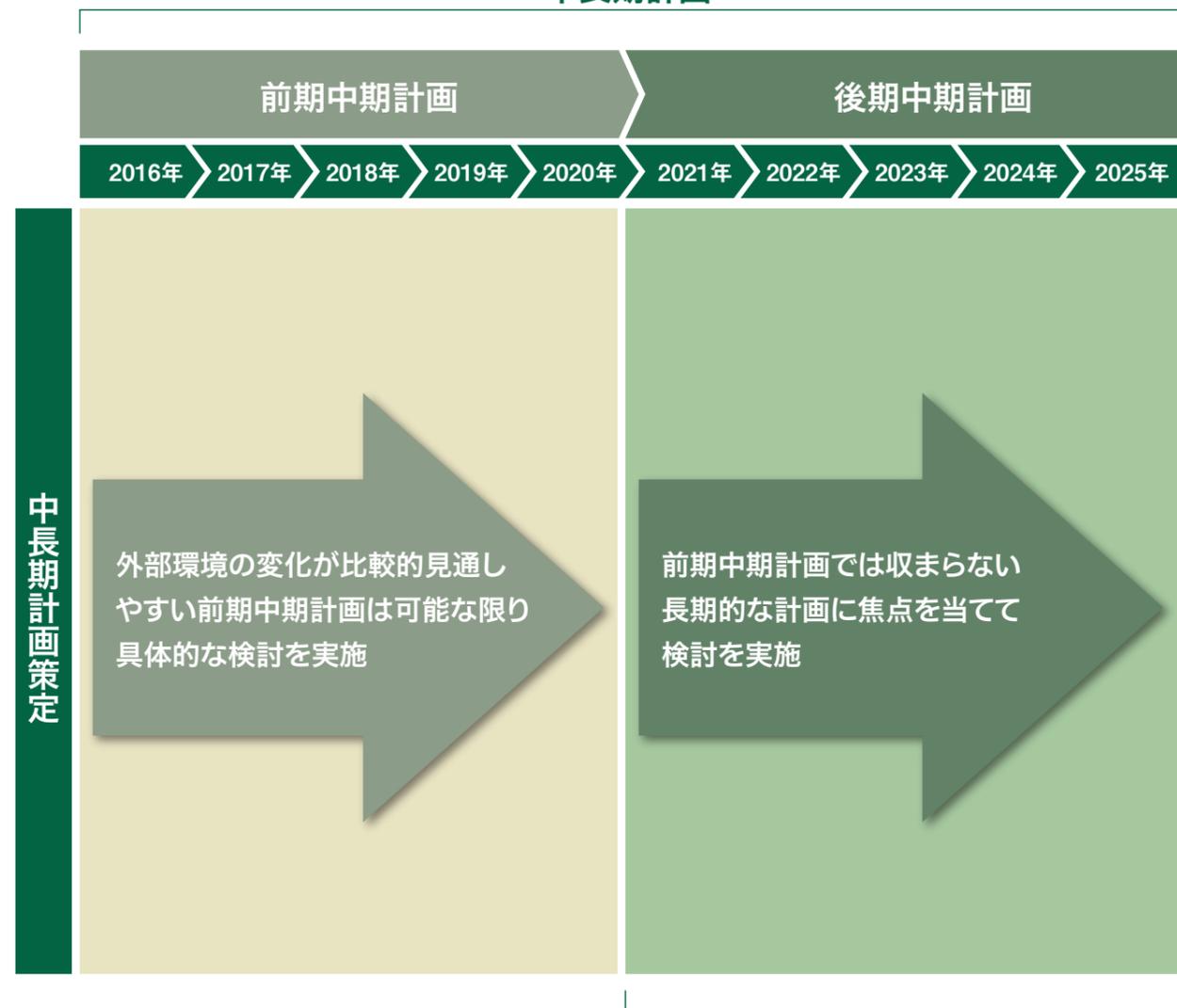
中長期計画の期間

- ① 中長期計画の期間は10年です。なお、前半5年を前期中期計画、後半5年を後期中期計画と位置づけます。
- ② 外部環境の変化が比較的通しやすいため前期中期計画は、可能な限り具体的な検討を実施します。
また、後期中期計画は、前期中期計画では取まらない長期的な計画に焦点を当てて検討を実施します。
- ③ 前期中期計画の終了にあたり、後期中期計画の全体的見直しを実施します。

中長期計画における重点事項

今後の厳しい経営環境変化の中で、西南学院が持つ資源の選択と集中を踏まえ、数十年後までも見据えた発展の観点から重点事項を定めます。

中長期計画



前期中期計画の終了にあたり、
全体的見直しを実施

1 建学の精神への原点回帰

- ① “Seinan, Be True to Christ”の理解を促進する。
- ② 自校教育を強化する。
- ③ ボランティア活動を活性化する。

2 西南学院ならではの学びと西南学院ブランドの強化

- ① 保育・教育における特長を強化する。
- ② ブランドイメージである国際性をさらに高める。
- ③ 広報戦略(入試広報含む)を再構築するとともに情報発信を強化する。

3 健全な財務基盤の確立

- ① 財務管理を強化する。
- ② 支出削減と支出計画(大学キャンパスグランドデザイン構想等)の見直しを実施する。
- ③ 収入財源(補助金や寄付金等)を強化する。

学校法人西南学院の主なアクションプラン

人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

1 西南学院としての一貫教育の強化

- ◆西南学院としての一貫教育のあり方の検討とその実現に向けた具体的連携策の展開
保育所から大学院までを擁する総合学園として、園児・児童・生徒・学生の視点に立って、一貫教育のあり方を改めて検討し、各学校・園・保育所間のさらなる連携を図る。

2 学院全体における建学の精神の浸透

- ◆建学の精神である“Seinan, Be True to Christ”の現代的かつ明瞭な解説と学院内外への発信
建学の精神である“Seinan, Be True to Christ”についての分かりやすい解説を設け、園児・児童・生徒・学生や教職員における建学の精神に対する理解を深める。また、学院外にも解説を発信し、建学の精神に対する理解を得る。

教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

1 修学支援に向けた奨学金の充実

- ◆創立100周年を記念した奨学金の創設
ビジョンの実現(国際性の修得等)を見据えた修学支援のさらなる充実に向けて、2016年に迎える創立100周年を記念した奨学金を創設する。

国際感覚:異文化を受容し、行動できる国際性の修得

1 国際化に対応した研修制度の整備

- ◆国際化に向けた職員研修制度の充実
国際化に向けた職員の能力開発(SD:Staff Development)を見据え、海外研修等の職員研修制度を充実させる。

地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

1 環境対応の強化

- ◆地域社会の模範としての環境憲章等の制定と具体的な環境施策の実施
現在、大学における環境マネジメント委員会の活動等、各学校・園・保育所で環境対応に取り組んでいるが、新たに西南学院としての環境憲章等を制定し、環境問題への取り組みや環境教育をさらに推進していく。

2 西南学院百年館(松緑館)を活用した地域貢献活動の展開

- ◆西南学院百年館(松緑館)を通じた学院史資料の展示や交流拠点(地域の方々や同窓生等)の形成
2016年開館予定の西南学院百年館(松緑館)を活用し、学院史資料の展示スペースや地域に開かれた交流の場を設ける。

経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

1 迅速かつ効果的な意思決定に向けたガバナンス体制の強化

- ◆学校法人としての学院全体の経営や連携に向けた体制強化
学校法人として、常任理事会のあり方の見直し等の体制強化を図ることにより、各学校・園・保育所それぞれの経営や連携の質をさらに高める。

2 ブランド管理や情報発信の強化

- ◆ブランディング基本方針の策定と広報体制の強化
本学院の存在価値(アイデンティティ)や醸成すべきイメージ等を明確にするとともに、学院外への情報発信に向けた広報体制を強化する。
- ◆シンボルマーク・ロゴタイプ・スクールカラー等に関するマニュアルの見直しと遵守の徹底
ブランディングに向けて、シンボルマーク・ロゴタイプ・スクールカラー等に関するマニュアルを見直し、全教職員における共通認識の醸成とマニュアル遵守の徹底を図る。
- ◆マスコミとの連携や情報発信の強化
マスコミ懇談会やプレスリリース等、マスコミとの連携を強化するとともに、本学院のタイムリーな情報を積極的に社会に発信する。

学校法人西南学院の主なアクションプラン

経営基盤：持続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

3 校友行政の強化

- ◆ 校友との交流の活性化と同窓生対象の会報発行やホームページの充実
本学院と校友とのつながりの強化に向けて、校友との交流(ホームカミングデーや同窓会活動等)や同窓生対象の情報発信を強化する。
- ◆ 大学博物館を活用したチャペルウェディングの利用促進
現在、大学博物館を活用したチャペルウェディングを年に数組実施しているが、校友を対象としたサービスの一環として、環境の整備や案内の強化を図っていく。

4 後援会との協力関係の強化

- ◆ 大学における後援会組織の創設と後援会組織に向けた情報発信の強化
本学院と後援会との協力関係の強化に向けて、後援会対象の情報発信を強化する。なお、現在、大学においては後援会組織がないため、早期に後援会組織を創設する。

5 危機管理体制の強化と健全な財務基盤の確立

- ◆ 危機管理基本マニュアルの学院内共有と浸透
自然災害や事件・事故等に対する危機管理は最も重要な責務の一つであることを自覚し、不測の事態に備えて、危機管理基本マニュアルの学院内共有と浸透を徹底する。
- ◆ 寄付金の充実
現在、創立100周年記念事業として、多数の関係者(本学院の教職員を含む)や企業に対して、募金の協力をお願いしている。寄付金は教育の充実(修学支援を含む)に向けた重要な原資であるため、今後も継続して募金活動を推進していく。

Thanks and Next! ～一粒の麦から、次の100年に向かって～

1916年4月

C.K.ドージャーが創立者となり
福岡市大名町(現・中央区赤坂)に
私立西南学院(旧制男子中学校)を創立



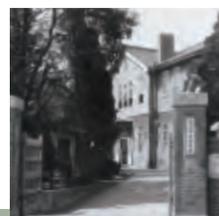
1921年3月

西南学院本館(現・大学博物館)
完成



1947年4月

新学制による
西南学院中学校開設



1971年7月

大学が
アメリカ・ベイラー大学と
国際交流開始



2003年4月

中学校・高等学校が
新校舎(百道浜)に移転



2009年10月

西日本最大級の
大学総合グラウンド
「田尻グリーンフィールド」の竣工



2010年4月

西南学院小学校が開校



2016年
西南学院創立100周年



1913年11月
福岡市荒戸町(現・中央区)に
舞鶴幼稚園開設

1918年1月
西南学院、
早良郡西新町(現・早良区西新)に移転

1945年9月
福岡保育専攻学校内に早緑国児園
(後の早緑子供の園)開設

1974年3月
短期大学部児童教育科を廃止し、
大学文学部児童教育学科となる

1996年4月
中学校男女共学に移行
あわせて高等学校との一貫教育実施

2008年5月
学院に奉職された宣教師を顕彰し
記念碑を建立

1907年10月
C.K.ドージャーら宣教師たちにより
福岡バプテスト神学校開設

1921年4月
西南学院高等学部(文科・商科)開設
(4年制・大学の母体となる)

1944年4月
高等学部を経済専門学校と改称

1987年1月
百道浜校地(74,000㎡)購入

1994年4月
高等学校男女共学に移行

2006年5月
大学に博物館(ドージャー記念館)を開館

1906年9月
アメリカ南部バプテスト派宣教師
C.K.ドージャー、G.W.ボールドン、
J.H.ロウの3夫妻来日

1940年4月
ミセスC.K.ドージャーにより西南保母学院
(後の福岡保育専攻学校)を開設

1948年4月
新学制による西南学院高等学校開設

1950年4月
福岡保育専攻学校は
短期大学部児童教育科となり
舞鶴幼稚園、早緑子供の園は
西南学院の組織に入る

1949年4月
新学制による西南学院大学開設
(学芸学部:神学、英文学、商学の三専攻)

1949年6月
早緑子供の園開設

西南学院早緑子供の園の主なアクションプラン

人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

1 キリスト教精神に触れる機会の充実

- ◆キリスト教に関する活動や行事(舞鶴幼稚園との合同礼拝、クリスマス行事、鳥飼バプテスト教会礼拝等)の充実を図る。

2 子どもが環境や経験から学ぶことを念頭に置いた保育展開

- ◆子どもたちが自分と家族や社会とのつながりを知り、感謝の気持ちや組織の中で役割を担う意味や意義を感じられるような保育を実践する。

教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

1 保育の充実

- ◆本中長期計画全体を踏まえた上で、保育課程の再編と確認を行い、学院の保育所として、質の向上と理念に基づいた保育の実践に務める。
- ◆これまで力を入れてきた特色ある保育内容(乳児保育の充実・縦割り保育・子どもの多面的経験の保障)について、現状を総括し、社会に情報発信する。
- ◆新任保育士や非常勤保育士への教育を充実させるため、保育者育成に向けた研修制度を構築する。

2 西南学院の保育所としての特色強化

- ◆一人ひとりを大切にする保育の実践とキリスト教保育の理念との整合性を実践的に体系化する。

3 保護者との連携強化

- ◆保護者から保育の理念や方針についての理解を得ることで、保育のさらなる充実を図る。その中で、園庭改造計画に関しての提案を行い、寄付金を募る。

4 西南学院大学との連携強化

- ◆西南学院大学人間科学部児童教育学科の教員や学生と連携した研究会、合同研究、ボランティア活動等を通して保育の充実を図るとともに、研究の場として保育実践現場を積極的に開く。

5 西南学院舞鶴幼稚園との連携強化

- ◆両園が同じ敷地に存在する意義を踏まえ、互いの特性が尊重されるような合同行事や研修会等の連携機会の充実、日常的な職員や園児同士の交流を図る。保育新制度についても社会の動向を見ながら将来像を模索する。

6 西南学院小学校との連携強化

- ◆園児と児童の交流をもとに、年齢ごとの発達課題に即した学院としての保育・教育理念が一貫して繋がり、強化されるよう、共に確認・検討の機会を持つ。

国際感覚:異文化を受容し、行動できる国際性の修得

1 異文化への興味や関心に基づく親しみの醸成

- ◆日常の中で異文化を意識するとともに、異文化に触れる機会を積極的に設ける。

地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

1 地域への子育て支援の強化

- ◆園庭の地域開放や園行事(こどもまつり、運動会、クリスマス等)の充実を図る。
- ◆地域に向けた育児講座や育児相談の充実を図るとともに、地域活動(地域の子育てサークル等)に参加し、子育て支援に貢献する。
- ◆西南学院大学人間科学部児童教育学科の保育実習生の受入れや講義での学生指導、卒論等の研究受入れを行い、西南学院で学び培った保育観を持った保育者の輩出を促進する。

経営基盤:持続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

1 安全管理・危機管理の徹底

- ◆安全管理・危機管理マニュアルの見直しとともに、防災・防犯に関する対策行動や設備・機器・備品の点検を実施する。

2 西南学院小学校への接続強化

- ◆西南学院小学校に関する情報(受験案内等)の発信業務を整備する。

3 西南学院舞鶴幼稚園の案内強化

- ◆本園に見学に来る保護者や未入所(待機)の保護者に対し、西南学院舞鶴幼稚園の未就園児クラス・行事・入園の案内を行う。

西南学院舞鶴幼稚園の主なアクションプラン

人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

1 キリスト教精神に触れる機会の充実

- ◆キリスト教に関する活動や行事(早緑子供の園との合同礼拝、クリスマス行事、鳥飼バプテスト教会礼拝等)の充実を図る。

2 自己肯定感を育み、仲間づくりを重視した保育の実践

- ◆当番活動や係活動、リーダー活動等を通して、自分の力を周りの仲間のために発揮する喜びを知り、それぞれの持ち味を認め合うことで、自己肯定感を育み、社会の一員としての適切なふるまひ方の基礎を築く仲間づくりの保育を進める。
- ◆話し合い活動等を通して、コミュニケーション能力を身に付けると共に、言葉に関する能力を高めたり、みんなで考え決めていく民主的主体的な経験を積めるよう援助する。

教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

1 保育の充実

- ◆保育の質の向上に向けて、
 - 1)縦割り保育や統合保育、リズム運動、遊び等の保育における特色を再確認しながら実践を深めていく。
 - 2)保育環境(自然環境等)の見直しと改善を図っていく。
 - 3)カリキュラムを見直し改訂する。

2 西南学院大学との連携強化

- ◆西南学院大学人間科学部児童教育学科の教員や学生と連携した研究、研究会、保育実習生の積極的な受入れ等を通して、保育理論と実践の融合を図る。

3 西南学院早緑子供の園との連携強化

- ◆両園が同じ敷地に存在する意義を踏まえ、
 - 1)花の日礼拝等の合同でのキリスト教行事や全園どろんこ遊び等の機会を増やす。
 - 2)それぞれの研修会や研究会をオープンにして相互に参加できるようにするとともに、合同での研修会や交流会等の連携機会の充実を図る。

4 保護者との連携強化

- ◆毎日の送り迎えの折に子どもの様子を伝え合うコミュニケーションを重視するとともに、活動や行事における保護者アンケート等を通じ、保護者と本園とで共に力を合わせ、子どもの育ちを担い見守っている感覚を持てるように促す。

国際感覚:異文化を受容し、行動できる国際性の修得

1 異文化への興味や関心に基づく親しみの醸成

- ◆日常の保育の中で、異文化(外国)の絵本や物語、異文化での生活についての外国人や海外帰国者の話等を通して、異文化に触れる機会を積極的に設ける。

地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

1 地域への子育て支援の強化

- ◆まいづるまつり、運動会等の園行事を近隣の親子や住民に出来るだけオープンにして参加を促し、幼児のために園庭開放等の充実を図る。
- ◆保育実践を通して学んだ子育てや子どもの発達に関する経験を活かして、園において開催する地域に向けた育児講座や育児相談の充実を図るとともに、地域の子育てサークル等に参加し、子育て支援に貢献する。

経営基盤:持続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

1 西南学院小学校への接続強化

- ◆西南学院小学校に関する情報(受験案内等)の発信業務を整備する。

西南学院小学校の主なアクションプラン

人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

1 キリスト教的理念を学ぶ機会の充実

- ◆チャペル、聖書科授業、キリスト教に関する諸行事等の充実を図るとともに、実践を通して学ぶ機会(ボランティア活動や学年縦割交流等)の充実を図る。
- ◆教職員が積極的にキリスト教を学び、日常の様々な場面において、キリスト教的理念を児童に学ばせる指導を実践する。
- ◆保護者との懇談会やキリスト教に関する諸行事を通して、キリスト教に基づく教育に対する理解を促進する。

教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

1 教育の充実(カリキュラムや教育方法)

- ◆教育における特色(充実した教科活動や外国語教育等)を強化する。
- ◆目標設定と学習評価による効果的・効率的な教育方法を強化する。
- ◆西南学院中学校・高等学校や西南学院大学との連携を活かした教育や交流の充実を図る。
- ◆「チームで指導し全体で育てる」というモットーを実践する組織的対応を強化する。

2 教育の充実(教員の質)

- ◆研究や公開授業の活性化を図る。
- ◆新任教員等の経験が浅い教員に対する育成システムの構築を図る。

3 保護者との連携強化

- ◆懇談会やアンケート等を通して、保護者とのコミュニケーション(協力依頼や意見収集等)を促進する。

国際感覚:異文化を受容し、行動できる国際性の修得

1 教育の充実(外国語教育)

- ◆カリキュラムや教育方法の改善とともに、外国語を用いる活動や場面、また異文化を体験する機会の充実を図る。

地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

1 保護者への支援強化

- ◆アフタースクールやサマースクールの導入を検討する。

2 地域ボランティア活動の充実

- ◆地域との交流機会を積極的に持つとともに、地域ボランティア活動の充実を図る。

経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

1 志願者獲得に向けた広報強化

- ◆保育所・幼稚園・塾に対する広報や本校における説明会等の催しを充実させ、本校への進学の魅力徹底周知する。
- ◆マスコミやホームページを徹底活用し、本校の特色やブランドイメージの浸透を図る。

2 安全管理・危機管理の徹底

- ◆安全管理・危機管理マニュアルの見直しとともに、防災・防犯に関する対策行動や設備・機器・備品の点検を実施する。

3 後援会組織との連携強化

- ◆後援会組織との交流機会の充実を図る。

4 西南学院中学校・高等学校への接続強化

- ◆西南学院中学校・高等学校に関する情報(進学の魅力や受験情報等)を徹底周知し、内部進学を促進する。

5 西南学院早緑子供の園・舞鶴幼稚園との接続強化

- ◆本校に関する情報(進学の魅力や受験情報等)を徹底周知し、内部進学を促進する。

西南学院中学校・高等学校の主なアクションプラン

人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

1 「平和をつくりだす人間教育」の反映、浸透

- ◆チャペルやミッション・ウィークの活用
チャペルやミッション・ウィークを活用した、いのちを大切に教育や「人権学習」・「平和学習」の充実を図る。
- ◆副読本の作成
副読本「西南学院で学ぶ」(仮称)を作成し、自校教育に活用する。
- ◆交流プログラムによる平和学習の充実
中学校における沖縄修学旅行や中学校・高等学校における韓国への(からの)旅等の行事を通して、平和学習の充実を図る。

2 「キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践」の反映、浸透

- ◆生徒が主体的に企画・運営するボランティア活動の充実
「クリスマス街頭募金」や「震災忘れない募金」等、生徒会や生徒有志による主体的なボランティア活動を支援していく。
- ◆地域の教会や他のキリスト教主義学校との連携によるプログラムの充実
各種プログラムを通じて地域の教会や他のキリスト教学校と連携し、キリスト教教育の充実を図る。

3 奉仕の精神を持つサーバントリーダー育成のプログラムの開発

- ◆サーバントリーダー育成のための教育プログラムの充実
奉仕の精神とリーダーシップを育てるための生徒参加の会議等の設置を検討し、情報共有の促進と支援プログラムの充実・強化を図る。

教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

1 入試制度・生徒募集

- ◆入試制度の検討
帰国生入試、入試科目、出題形式、入試日程等、特色のある入試制度の導入を検討し、長期的な展望に立った生徒募集を推進する。

2 カリキュラム・教科教育

- ◆教科教育の充実
多様な生徒のニーズに応え、課題解決型学習という観点から教科教育および教育設備の充実を図る。特に、理科においては実験授業のさらなる充実を目指し、環境を整備していく。
- ◆ICT教育の検討推進
全教室への電子黒板の設置等の環境整備や研究授業・デジタル教材研究等を通して、ICT教育の充実を図る。

3 進路指導

- ◆高大接続および連携の課題に対応した進路指導の充実[高等学校]
1)大学入試制度の多様化に対応した進路指導計画の充実を図る。
2)西南学院大学の開講科目への参加等を通して、教育交流の充実を図る。

4 就学支援

- ◆奨学金の拡充と充実
進路保障および教育環境向上の一環として、本校独自の奨学金制度の拡充と充実(金額・人数・対象者・基準等)を図る。

5 総合的な「知」

- ◆感性を養う教育の検討・充実
芸術の授業や鑑賞行事等を通して、感性を養う教育の充実を図る。
- ◆図書館利用を通じた教育の充実・学習方法の修得
情報センターとしての図書館の機能をさらに充実させるとともに、学習の場としての図書館の利用を促進させる。

西南学院中学校・高等学校の主なアクションプラン

国際感覚：異文化を受容し、行動できる国際性の修得

1 グローバル人材の育成

- ◆ 国際交流プログラム(海外研修を含む)の充実、留学制度や留学提携校の検討
中学校も含め、研修プログラムを充実させるとともに、留学を志す生徒を支援し、交換留学提携校の検討を進める。
- ◆ 帰国生への対応
帰国生の募集拡大、教学支援を検討し、教育環境の充実を図る。
- ◆ 卒業後の海外大学進学に向けた支援体制の構築[高等学校]
進級制度を見直し、卒業後海外の大学への進学を希望する生徒を支援する。

2 英語教育のさらなる強化と拡充

- ◆ 全生徒に対する英語力の全般的な向上
英語力の向上を図るための教育プログラムの充実を図る。
- ◆ 英語力の学外指標の導入I [中学校]
中学校においては現在導入しているGTEC等を活用する。
- ◆ 英語力の学外指標の導入II [高等学校]
高等学校においてはTOEFL、TOEIC等英語外部検定試験の導入を検討する。

3 留学生の受入れ体制の強化によるキャンパスの国際化の推進

- ◆ 留学生の受入れ体制の強化
留学生を積極的に受入れるため、組織体制の強化・充実を図る。
- ◆ キャンパス国際化の推進
留学生との交流の機会を設け、国際化の推進を図る。

地域貢献：進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

1 地域における貢献活動

- ◆ ボランティア活動やイベント等の地域貢献活動・地域福祉活動の充実
地域に貢献するための生徒によるボランティア活動やイベント等の充実を図る。
- ◆ 同窓生、地域住民との連携の強化
同窓生や地域の人々との情報交換や交流の機会を設け、連携強化を図る。
- ◆ 地域の児童生徒を対象とする公開授業の積極的な展開[高等学校]
「サイエンスラボ」等の公開授業の実践を通して、地域の小中学生に学ぶ楽しさを伝えていく。

経営基盤：持続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

1 広報活動

- ◆ 中学校・高等学校全体のブランディング・広報活動
中学校・高等学校の教育活動を多角的に伝え、志願者の信頼を得るために、広報活動のさらなる充実を図る。

2 運営管理体制の強化

- ◆ IR(Institutional Research)の導入
校内にある様々なデータを教育改革および経営戦略的な観点から分析し、中長期計画策定・実行に活用する。
- ◆ 校友行政の強化・同窓会との協力関係強化
同窓会との共同事業等を通して、在校生の同窓会活動に関する認識を高めさせ、継続的な協力関係の強化を図る。
- ◆ 後援会との協力関係強化(情報交換のさらなる充実や専用ホームページの改善と活用)
後援会への学校行事・課外活動等に関する情報提供を充実させ、本校の教育活動に対する理解を深めるとともに、協力関係の強化を図る。

西南学院大学の主なアクションプラン

人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

1 建学の精神の浸透

◆ 自校教育の強化

建学の精神に対する深い理解と愛校心の醸成に向けて、自校教育に関する推薦図書の利用を促進するとともに、自校教育の取り組みを拡充する。

2 キリスト教に関する教育研究活動の活性化

◆ キリスト教精神の理解につながる体験的学びの拡充

キリスト教精神の理解につながるボランティア活動や座学に留まらない課外活動(キリスト教会への訪問や関連展示会への参加等)の機会を拡充する。

◆ キリスト教に関するフォーラムやシンポジウム等の開催

キリスト教の理解やキリスト教研究の活性化に向けて、キリスト教に関するフォーラムやシンポジウム等の情報発信を充実させる。

◆ キリスト教および他宗教も含めた研究活動の促進

キリスト教主義に基づく教育を実践する大学として、キリスト教の研究活動を促進する。なお、キリスト教のみに限定せず、他宗教の研究活動も促進する。

3 本学の特色を発揮したボランティア活動の活性化

◆ サービス・ラーニングの推進

奉仕の精神をもって社会に貢献する人を育てる大学として、教育とボランティア活動を有機的に結び付けたサービス・ラーニングを推進していく。

◆ 海外ボランティア活動の強化

本学の国際性を活かした海外ボランティア活動に関するプログラムを強化し、学生が国際社会への奉仕を体験できる機会を拡充する。

◆ ボランティア活動の活性化

ボランティア活動を建学の精神の具現化と位置づけ、学生や教職員によるボランティア活動をさらに活性化させる。

教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

1 教育研究組織や入学定員(収容定員)の点検

◆ 理系分野を含む教育研究組織新設の具体的検討

地域社会のニーズや本学への入学を希望する高校生の期待に応えるため、専門分野の幅を広げる。特に理系志望の優秀な高校生に新たな道を拓く教育研究組織の新設を検討する。

◆ 既存の教育研究組織の充実に向けた改組検討

時代に即した特色ある教育研究成果の創出に向けて、既存の教育研究組織を点検し、さらなる充実に向けた改組を検討する。

2 入学者選抜制度における中長期戦略の構築

◆ 高大接続改革実行プランにおける新テスト導入への対応検討

アドミッションポリシーに合致する学生の受入れを見据え、2020年に導入が予定されている「大学入学希望者学力評価テスト(新テスト)」への対応を検討する。

◆ 福岡や九州以外からの志願者の獲得

幅広い地域からの志願者の獲得に向けて、福岡や九州以外の重点強化地域を定め、戦略的な学生募集を展開する。

3 高大連携の強化

◆ 西南学院高等学校やその他の特色ある高等学校との連携

西南学院高等学校やその他の特色ある高等学校(スーパーグローバルハイスクールやスーパーサイエンスハイスクール等)とのさらなる連携を通して、高大連携を強化する。

4 教育課程の体系化

◆ 順次性のある体系的な教育課程の構築と開講科目のスリム化

学生の学修効果の最大化に向けて、カリキュラム・マップや履修モデルを用いた教育課程の整理を実施し、順次性のある体系的な教育課程を構築する。また、開講科目もスリム化する。

西南学院大学の主なアクションプラン

5 教育方法や教育プログラムの拡充

- ◆ **学生の主体的学修を促すアクティブ・ラーニングの推進**
学生の学修効果の最大化に向けて、課題研究、課題解決型学修、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り込んだ授業をさらに拡充し、学生の主体的学修を促進する。
- ◆ **本学の特色の一部である「語学教育」・「情報処理教育」・「少人数教育」の点検と改善検討**
本学の特色の一部である「語学教育」・「情報処理教育」・「少人数教育」を点検し、さらなる強化に向けた改善の検討を進める（その他の特色である「キリスト教教育」と「国際性」については、人間育成と国際感覚に関するアクションプランにて取扱っている）。

6 学修支援・学生生活支援の強化

- ◆ **学修成果の測定に向けた評価指標の開発と活用**
学生における学修の自己管理（取り組むべき課題の把握等）や大学としての教育の質保証を見据え、客観的かつ合理的な学修成果の測定に向けた評価指標の開発と活用を進める。
- ◆ **退学率ゼロプロジェクトの推進**
現状、本学は学生支援が充実しており、退学率は他大学と比較して非常に低い数値に留まっているが、この特長をさらに伸ばすため、退学率ゼロ（前向きな進路変更は除く）を目指し、支援を強化する。

7 ラーニング・コモنزの充実

- ◆ **正課内外でのラーニング・コモنزの活用**
学生の主体的学修の促進に向けて、新図書館（2017年度開館予定）のラーニング・コモنزの積極的な活用を展開していく。

8 キャリア支援・就職支援の強化

- ◆ **キャリア教育（正課外含む）の充実や学生一人ひとりに対応した支援の強化**
学生が将来のキャリアを考えるとともに、希望するキャリアを実現できるよう、キャリア教育の充実や学生一人ひとりに向けた、きめ細かく面倒見のよい支援を実施する。
- ◆ **関東や関西における就職支援の強化**
関東や関西における就職機会の拡充に向けて、2013年1月に開設した東京オフィスや学生就職活動サポートセンター（私学事業団）のさらなる活用を促進する。

9 研究支援の強化

- ◆ **学内研究支援制度の整備**
研究成果のさらなる促進に向けて、既存の学内研究支援制度（研究インキュベート等）を点検し、研究環境やモチベーションの向上につながる改善の検討を進める。

国際感覚：異文化を受容し、行動できる国際性の修得

1 教育環境の整備

- ◆ **「西南学院大学グローバルリーダープログラム」（仮称）の開発**
グローバル社会における学生のさらなる活躍を見据え、本学の国際性を活かした「西南学院大学グローバルリーダープログラム」を開発する。
- ◆ **外国語による授業科目の拡充**
本学の特色である国際性のさらなる進展に向けて、英語等の外国語による授業科目の拡充を図る。
- ◆ **外国語によるコミュニケーション施設の設置**
学生の外国語に対する関心や語学力の向上に向けて、日常における外国語によるコミュニケーション機会のさらなる拡充を図る。

2 留学生派遣・受入れ環境の整備

- ◆ **外国人留学生と日本人学生との混在型宿舍の新設**
外国人留学生の受入れをさらに促進するための環境整備の一環として、ハード面とソフト面（教育・学修効果）の両面で効果が期待できる外国人留学生と日本人学生との混在型宿舍を新設する。
- ◆ **適正な学期制度やダブルディグリー留学制度の検討**
留学生の派遣・受入れをさらに促進するための環境整備の一環として、適正な学期制度やダブルディグリー留学制度の検討を進める。
- ◆ **外国人留学生を踏まえたシラバス等の日英表記化**
外国人留学生の受入れをさらに促進するための環境整備の一環として、シラバス等の日英表記化を進める。

3 教職員体制の整備

- ◆ **外国人教員の採用や招聘の推進**
本学の特色である国際性のさらなる進展に向けて（外国人教員比率は国際性に関する主要な指標の一つ）、外国人教員の採用や招聘を推進する。

西南学院大学の主なアクションプラン

4 各種支援の強化

- ◆ 派遣・受入れ留学生OB・OGを活用した学生への留学奨励や各種支援
派遣・受入れ留学生OB・OGのネットワークを活用し、留学に関心がある学生や留学を計画している学生等への留学奨励や各種支援を強化する。
- ◆ 外国人留学生に対する就職支援の強化
外国人留学生の受入れをさらに促進するための環境整備の一環として、外国人留学生に対する就職支援を強化する。

地域貢献: 進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

1 大学諸施設を活用した地域貢献活動の充実

- ◆ 大学諸施設を通じた大学と地域の交流強化
西南コミュニティセンター、大学チャペル、大学博物館における地域に向けた活動をさらに充実し、大学と地域の交流を強化する。

2 地域社会の知的基盤としての地域貢献活動の充実

- ◆ 「パートナーシップ・プログラム」の対象拡大
本学の知的資源を活用した社会貢献活動として、講師派遣や各種審議会への委員派遣等の実績を積んでいる「パートナーシップ・プログラム」の対象を拡大し、社会貢献活動のさらなる活性化を図る。
- ◆ 産官学連携の推進
地域社会の知的基盤として、産官学連携(産官学での共同研究や共同プロジェクト等)をさらに推進する。
- ◆ 社会人向けコースの設置検討
大学としての社会的役割を認識し、地域社会の知的基盤として、社会人のリカレント教育に対するニーズに応える方策を検討する。

3 福岡の文化や歴史についてのプログラムを通じた地域振興

- ◆ 福岡県・福岡市と連携した「博多学」等の全国への発信
福岡県・福岡市と連携し、本学の教育研究の成果と立地を活かした「博多学」等の福岡の文化や歴史に関する情報を発信する。

経営基盤: 持続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

1 迅速かつ効果的な意思決定に向けたガバナンス体制の整備

- ◆ 学長支援体制の強化
大学運営の中で生じる様々な課題の迅速かつ効果的な解決に向けて、学長支援体制を強化する。
- ◆ 教職協働の強化に向けた事務局人事制度の見直し
事務局の目指す姿および求められる職員像の見直しと実現に向けた人事制度(研修制度等)の見直しを実施する。

2 ブランディングとマスコミとの連携強化

- ◆ 入試センターと広報課との連動による受験生に向けた入試広報戦略の再構築
本学の魅力や入試情報を受験生やその他関係者に余すことなく伝えられるよう、入試センターと広報課が連動し、ブランディングを踏まえた入試広報戦略を再構築する。
- ◆ 学外者利用に向けた教員データベースの内容充実と利便性の向上
学外からの問い合わせや出演・執筆依頼等の窓口としての機能強化に向けて、学外者利用に焦点を当てた教員データベースの内容充実と利便性の向上を図る。

3 IR(Institutional Research)による運営管理の強化

- ◆ IRによる学生募集・学生支援・教学支援等の推進
学生募集・学生支援・教学支援等における改善改革の促進に向けて、学内外の様々なデータを収集し、分析するIR機能を強化する。

4 健全な財務基盤の確立に向けた点検と改善検討

- ◆ 補助金(経常費補助金や科学研究費補助金等)の獲得強化
補助金の獲得に向けて、現在まで経常費補助金コンシェルジュの設置等の取り組みを推進してきた。健全な財務基盤を確立する上で、補助金は重要な収入財源であり、今後、補助金の獲得をさらに推進していく。
- ◆ 計画的なキャンパス整備
創立100年を迎える2016年、そして、さらなる100年後を見据え、計画的にキャンパス整備を進める。なお、計画の点検や必要に応じた見直しを適宜実施し、財政の健全性が損なわれないように留意して進める。

西南学院大学大学院の主なアクションプラン

教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

1 大学院教育のさらなる充実

- ◆1年間で学位を取得させる規定に基づく具体的な制度の検討(優れた業績をあげた者を対象とする)研究業績を厳正に評価できる具体的な制度となるように取り組む。
- ◆教育補助業務従事者(TA:Teaching Assistant)や研究補助業務従事者(RA:Research Assistant)の制度化
大学院生が将来教員や研究者となるための実践的な学びと、研究遂行能力の育成や研究活動の水準を高めるための制度となるように関係部署と連携して取り組む。

2 就職支援の充実

- ◆大学院生向け就職支援体制の充実とキャリア形成支援への取り組み
大学院生に特化した就職セミナーの実施等を含め、就職支援体制を充実するとともに、文科系・社会科学系総合大学院として、大学院生のキャリア形成支援の具体的方策について、関係部署と連携して取り組む。

3 学生支援の充実

- ◆大学院生への研究費支援
大学院生の研究活動を支援し、研究成果を高めるための研究費支援制度を制定する。
- ◆給付奨学金制度の充実
経済的な支援が必要な大学院生のために、給付奨学金制度を充実する。

国際感覚:異文化を受容し、行動できる国際性の修得

1 海外の大学院や外国人留学生との連携促進

- ◆海外留学や国際的学術交流の活性化
グローバル人材の育成のために、海外の研究者によるセミナー開催や海外留学等、関係部署と連携して国際的学術交流の活性化を図る。

地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

1 地域ニーズへの対応

- ◆臨床心理センターによる地域貢献
臨床心理センターについての学外への案内を強化し、相談件数を増やして地域への貢献度を高める。
- ◆社会人学生の受入れ促進
入試制度や入学後の支援体制を検討・整備し、社会人学生の受入れを促進する。

西南学院大学法科大学院の主なアクションプラン

人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

1 「養成する人材(法曹像)」の理解の促進

- ◆福岡県手話通訳士会との連携
福岡県手話通訳士会と連携し、「刑事模擬裁判」および「民事模擬裁判」に手話通訳士が参加する取り組みを定着させる。

教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

1 法科大学院教育のさらなる充実

- ◆法学部との連携促進
応用法律学(法学部と法科大学院が連携して実施する法学部授業科目)の充実といった、法学部教育との連携とともに、法学部と法科大学院の教職員間の十分な連携・意思疎通を行う。

2 就職支援の充実

- ◆修了生向けのキャリア形成支援における支援体制の強化
修了生が社会の様々な分野で活躍できるよう、修了生向け採用情報の提供や、一人ひとりにあったキャリア選択へのサポート支援の検討を関係部署と連携して進める。

国際感覚:異文化を受容し、行動できる国際性の修得

1 国際性を兼ね備えた法曹の育成

- ◆日本社会自体の国際化に伴って出現している問題への理解を深める企画の実施
海外企業の日本での活動や日本国内での外国人の権利保護等についての講演会を実施する。

地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

1 地域の法曹ニーズへの対応

- ◆弁護士法人コイノニアの利用促進
法科大学院棟の中にある法律事務所「弁護士法人コイノニア」について、地域での存在感を高め、法律相談等の活動を積極的に行う。
- ◆福岡県弁護士会への協力
福岡県弁護士会が法普及のために実施している「ジュニアロースクール」および法学未修者を対象とした出前講座を通じて地域貢献する。

2 本学法科大学院主催の法教育の実施

- ◆福岡市内の学校への出前授業の開催
西南学院小学校、中学校・高等学校をはじめ、福岡市内の小学校、中学校・高等学校の要請に応じて、分かりやすい法教育を実施する。